

## 2018年度活動総括及び2019年度活動方針について【概略版】

### 【理念について】

①昨年度まで、事業運営が進む中で、「介護の使い慣れ＝本人の努力」が先行し、理念のはき違えから「本人任せ」の支援になってしまう場面がありました。

それらの踏まえ…

- ・当事者主体とは…

「本人の想いや意思の姿勢を尊重すること」で「本人責任、本人任せ」となることではないこと。

- ・エンパワメントとは…

本人が自信を持って生きやすくなる「社会モデル」の発想だが、本人ができるようになることが目的化する支援は「医療モデル」的な発想になりやすいことを注意していく必要があります。

### 【活動について】

①行政取り組みにおいて、報酬改定による日中活動、相談支援、身体拘束減算等の課題や、GH調査、相談支援調査等、「生活実態から制度の乖離」を府市と連携して国へ訴えたり、法人内でも制度学習会を行う等スキルアップを図ってきました。

↓

2019年度は「生活実態から制度の乖離」を把握して、当事者と共に訴えていきます。

また中堅「制度」チームによる「出前学習会」を行う等、各職員が身近に制度を学ぶ仕組みをつくりまします。

②施設取り組みでは、10年ぶりに市内20施設への訪問活動が始まったことで、今後施設とのつながりを作り、地域移行や困難ケースの受け皿といった基盤づくりのきっかけとなりました。

↓

2019年度は、訪問活動から実態を把握する一方、「地域生活の紹介DVD」も作成し、また障害者が「ピアの力」を発揮できるよう、「立ち上がり」を支える活動作りに継続して力を入れていき、各種活動における軸となる当事者の役割作りを進めていきます。

### 【支援について】

①GHでは職員を増員し、勤務体制をよりシフトさせることで生活づくりがさらに進んできましたが、地域の自立障害者支援は後手に回る場面がありました。下半期から支援チームをつくり地域の自立障害者の支援に力を入れてきたところです。

↓

2019年度は、自立障害者の加齢に伴う重度化、介護保険との併用などの課題等、改めて状況を確認していき、また職員が介護に入ることをベースに、本人と向き合いながら生活づくりを考えていきます。

#### (支援について)

②支援については「現場で考え、活かせる、連携して動いていくこと」を目標に中堅「支援」チームが中心となってい、行動を現象面だけでとらえるのではなく、その背景から本人の想いや原因を探り、アプローチ方法を明確にしてきました。

↓

2019年度は引き続き、中堅「支援」チームが中心となってい支援計画の運営を行っていく一方、「支援ハンドブック」を作っていきます。

#### 【運営面について】

①組織の会議が報告中心となり形骸化しているところもあることから、それぞれの部署で発生している課題に着手するのが遅れ、部署の課題の吸い上げや原因分析が不十分でした。

↓

・2019年度は、各部署で課題を早期発見解決していくため、「報告を簡潔にして課題検討中心の場」となるよう会議の中身を見直します。(項目の統一と個々の見直しを実施)

②危機管理部門を立ち上げ、新人、中堅職員向けに事故、ひやりはっとへの注意喚起、身体介護や移乗介護等のスキルアップ研修を行、また災害対策のための避難計画の作成、災害時の備蓄品の購入を行いました。

↓

2019年度は個々の障害者の介護内容の見直し(「生活リスクチェック」)を行、事故、虐待防止等、各現場を横断的にサポートしていきます。また防災については、今年も台風や豪雨災害がを想定し、前年度作成した避難計画を用いて各部署で避難計画を実施していきます。

#### (人材育成・確保)

③人材育成や確保については、大学講演活動で当事者が講演していきつながりを作ってきました。またその活動の中で人材の採用につながり、その他求人媒体や職員紹介から複数採用につながりました。

↓

2019年度は人各種媒体利用の継続と、大学講演活動で募集に力を入れ、「障害者の実態、私達が目指すもの、この仕事の魅力」についてアピールしていきます。